

意見書案第37号

令和4年12月15日提出

令和4年12月15日可決

提出者	市議会議員	角田修一
	同	阿部忠幸
	同	中里武一
	同	岡田修一

指定避難所学校体育館への空調設備の設置に係る
財政措置の一層の拡充を求める意見書

令和4年の6月～8月までの夏の平均気温は、1898年の統計開始以来、2番目に暑い夏（平年を0.91度上回る）だったと気象庁が発表した。

各地で暑さの記録を更新、東京では35度以上の猛暑日が16日と過去最多。他、北海道釧路市や松山市など15の地点では、夏の平均気温が過去最も高くなり、7月1日には埼玉県や岐阜県など6地点で40度超えを観測し、観測史上初めての記録となった。

こうした状況下において、地震や豪雨などの大規模な災害が発生した場合、避難所は多数の被災者が集団で生活するため室内温度が上昇しやすく、熱中症の発生が非常に危惧される。特に、指定避難所として利用される学校体育館は、その本来の機能上、空調設備が十分に設置されていないため熱が籠もりやすく注意が必要であり、加えて新型コロナウイルス感染症の拡大により避難所という密になりやすい空間においては、十分な換気と室温管理が重要となっている。

文部科学省が実施した「公立学校施設空調（冷房）設備設置状況について」の報告によると、令和4年9月時点の学校体育館等への空調設備の設置率は15.3%（スポットクーラーを含むと24.7%）と低い水準にとどまっている。

地球温暖化の進行により、豪雨や猛暑のリスクがさらに高まることが予測されている状況において、指定避難所となる学校体育館への空調設備の設置は喫緊の課題であり、国の財政支援が必要不可欠である。

よって、国においては、指定避難所となる学校体育館への空調設備の設置が早期に実現できるよう、財政措置の一層の拡充を図ることを強く要請する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年12月 日
衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣 あて
総務大臣
文部科学大臣

前橋市議会議員 小曾根 英 明